

KPU NEWS



社会を動かす薬学へ。

京都薬科大学

KYOTO PHARMACEUTICAL UNIVERSITY

No. 220 Jan. 2025



2025(令和7)年 年頭のごあいさつ

理事長 木曾 誠一

新年明けましておめでとうございます。

京都薬科大学の関係者の皆様方には健やかに新春をお迎えになられたこととお喜び申し上げます。

一昨年の5月に新型コロナウイルス感染症が2類相当から5類感染症に移行され、今年度は対面での講義、京薬祭や駅伝大会の開催など京都薬科大学もコロナ前の状態に戻ることが出来ました。大学は学問を修める場であるだけではなく、クラブ活動や社会活動を通じて、人間性を磨く場でもあります。Science(科学)、Art(技術)、Humanity(人間性)のバランスの取れたファーマシスト・サイエンティストを育成することを掲げる我々にとって、そのような場を取り戻せたことを本当に嬉しく思います。

私は就任以来、京都薬科大学を私学薬学の雄として誰もが認める大学にしていくことを目指してきました。それを測る指標として、国家試験合格率、就職率、偏差値を挙げ、その向上を図ってきました。すなわち、これらの指標は、我々の目指す、「優秀な人財を集め(偏差値の向上)、育て、優秀な薬学人財として社会に送り出し(薬剤師国家試験の合格率の向上、ファーマシスト・サイエンティストの育成)、様々な

分野で健康を願う人々に貢献する(就職率の向上と就職内容の充実)」ことに繋がっていきます。昨年度の国家試験合格率は総合で84.8%と前年度に比べて3.7%下がりましたが、全国平均の68.4%よりも高く、ストレート合格率は78.9%と6.3%上がりました。一方、就職率はほぼ100%、就職先も企業、病院、薬局・ドラッグストアが同じような割合であり、国立大と同様の傾向を見せています。また、偏差値は52.5と前年と同様の数字となっています。しかしながら、我々はもっと高みを目指しており、これらの数字は決して満足のいくものではありません。今後、これらの数字を如何に向上させていくか、教職員一丸となって、取り組んで行かなければなりません。一層のご努力、ご支援をお願い致します。

そして、高い目標を目指すためにはソフト、ハード両面におけるより良い学びの環境作りが大切であり、その整備を進めています。まず、ソフト面では、教員の充実を図るべく、教員の採用を加速させており、多くの選考委員会が立ち上がっております。今年度は昇任を含めて既に教授以下7名の採用を決めており、その内5名は本学卒業生となっております。ハード面では新

CONTENTS

■ ご挨拶

- 2025(令和7)年 年頭のごあいさつ 理事長 木曾 誠一..... 1
- 新年にあたって 学長 赤路 健一..... 2
- 新任のご挨拶..... 3

■ 特集

- 新校舎建築工事がスタートしました..... 6

■ 報告

- 新校舎建築工事起工式を実施しました..... 8
- 大学院生を対象とした研修会を開催しました..... 12
- 2025年度学校推薦型選抜結果..... 13
- 受賞・掲載..... 20
- 京都薬科大学奨学寄附金芳名録..... 24

■ コラム

- 私の薦める、私の一冊..... 9
- 卒業生からのメッセージ..... 13
- 十人十色「悠々自適に挑戦してみて」..... 14
- 学生相談室だより..... 19

■ イベント

- 2024年度 防災(避難)訓練を実施しました..... 15

■ お知らせ

- 人事..... 4
- 2024年度動物慰霊祭..... 4
- 京薬会だより..... 5
- 第110回薬剤師国家試験の概要..... 11
- Library News..... 12
- 生涯教育センターからのお知らせ..... 16
- 2023年度後期試験等日程..... 18
- 単位互換制度～他大学の科目・講座を受けてみませんか～..... 18

校舎の建設が決まり、起工式が昨年11月20日に執り行われ、建設に着手しております。この建設により最大450名が収容できる大講義室、先端的研究のコアとなる「シナジー研究施設」、学生の学びを支援する施設など、更に充実した学びの場を提供できるものと期待しております。また、今後、臨床薬学教育研究センターおよび育心館の改修工事も進めていきます。加えて、益々重要性を増しているIT環境についても整備を行い、より快適なIT環境作りを進めていきます。

一方、これまでもお話してきた通り、本学の最も重要な財産の一つが卒業生の方々です。これまで24,000人もの卒業生を輩出し、その内18,000人の方々が現役で活躍されており、その方々の活躍により本学のブランドは作り上げられております。その卒業生の集う京薬会との連携強化は我々の最も重要な課題の一つであります。そのため、既に京薬会長、理事長、学長を含めた両者の連絡協議会の設置を決め、今後定期的に連携のあり方や進め方、課題とその解決策などについて話し合っていく予定です。そして、両者が連携・協同しながら、卒業生の方々へリカレント教育、リスキリングなどの学びの機会の提供や同窓生が集う場の提供を進め、卒業生の自己研鑽やネットワーク作りをサポートしていきたいと考えております。

さて、倫理とコンプライアンスについては、折に触れてその大切さをお話し、遵守をお願いしています。医療に関わる大学として、倫理およびコンプライアン

スについては他の大学にも増して厳しく臨まなければなりません。倫理やコンプライアンスなくしては、教育や研究も成り立ちません。どんなに優れた研究を行っても、どんなに良い講義ができたとしても、倫理やコンプライアンスが守られてなければ、意味をなしません。大学という教育・研究の場は倫理やコンプライアンスの上に成り立っていることを認識頂き、自らの言動を今一度確認頂きたいと思います。

今年の干支は乙巳（きのとみ）。干支は十干十二支を略したもので、乙は十干の二番目で木の要素を持ち、草木がしなやかに成長し、広がっていく様子を表しています。また、巳（み）はへび、神様の使いとして大切にされてきた動物で、脱皮を繰り返し、強く成長することから不老長寿のシンボルともされています。そのため、「乙巳」の年は「再生や変化を繰り返しながら、柔軟に発展していく年になる」と言われています。

140周年となる年が過ぎ、150年周年に向けて歩み出すこの年が京都薬科大学の新たな飛躍に向けた始まりの年となります。伝統は変わらない姿を示しているのではなく、小さな変革を積み上げながら困難を乗り越え、歩んできた姿を表しています。我々も「乙巳」の意味するところにあるように、チャレンジを続け、変革を積み重ねながら、しなやかに成長・発展を遂げるべく取り組んで参りたいと思いますので、何卒これまで以上のご支援・ご協力をお願い致します。



新年にあたって

学長 赤路 健一

新型コロナ感染もようやく落ち着きを見せ始め、パンデミック前の日常生活が戻ってきつつあります。本学でも、入構制限や研究活動・課外活動の制限が撤廃され、対面を基本とする講義や実習、課外活動が行えるようになりました。しかし、いつどこでどのような新興・再興ウイルスが発生するかは全く予想できません。世界の流動性が飛躍的に高まった現在、世界のどこかでパンデミックが起これば瞬く間に拡散する可能性がまだ十分に考えられます。ヒトの英知と感染症との静かな闘いがこれからも続き、新しいワクチンや治療薬の開発は今後も喫緊の課題であり続けます。薬学を含めた医療界がその最前線に立つことが求められています。

京都薬科大学は、これからも大きく変化する医療界で薬の専門家として様々な領域で社会に貢献できる薬剤師の育成に努めてきました。薬学を含めた医療界では新型コロナパンデミックを契機として急速なDX (digital transformation) が進み、日々の診断や遠隔地医療に取り入れられ始めています。これからもこのようなデジタル環境が大きく後戻りすることは無く、どんどん多様な形で取り入れられていくでしょう。これからの医療界で活躍できる薬剤師

には、薬の調剤のみならずヒトでしかできない対人業務や情報活用に携わることが求められています。薬剤師として新たな医療の変化・動向にどのように貢献できるのかを自ら判断し行動に移すことが必要になります。基本に忠実に、かつ変化に柔軟に対処することが求められているのです。創薬についても、これまで開発されてきた高分子蛋白製剤に対して、使用に際しての弊害や経済的効率性に関する懸念も出て来つつあります。このような動向を踏まえ、新たな生体成分に範をとった中～低分子新薬の開発が進みつつありますが、その治験や新しい薬剤についての行政の役割にも変化が起これることが容易に予想されます。

京都薬科大学では、このような大きな変化にも対応できる薬剤師育成に適したカリキュラム整備を進め、昨年から新しい薬学モデルコアカリキュラムを基礎とする本学独自の新たなカリキュラムを実施しています。このカリキュラムでは、6年間での学修・卒業と薬剤師国家試験合格を大前提として、ゆとりを持った多様な学びを目指しています。皆さんそれぞれの思いに合わせ、将来の薬学を担う人材育成に向けた効果的で実践的な学習支援体制とそのアップ

デートを継続して行います。皆さんそれぞれの習熟度に応じたより効率的でわかりやすい講義になるように、対面での講義とともにWebをうまく取り入れた中継講義などを利用できるようにしました。様々な情報交換についても、現実の距離を感じさせない新しい通信技術を活用できるようになっています。このような新しいツールを活用した学習環境をさらに充実させるため、今年早々から新しい校舎の建築を開始いたします。設備等の詳細は別途紹介記事をご覧ください。この新校舎には、大講義室や実習室、薬学教育研究センターや学生実習支援センター、これらセンターと連携したラーニングスペースが新たに整備されます。新しい学習環境を有効に使いつつ学生・教職員間の対面コミュニケーションをより効果的に進めていただくことを願っています。

これからの医療界ではデジタル化やAIの利用が一気に進み、コミュニケーションの形態も大きく変わると予想されています。世界がますます狭くなると

ともに変化の速度も加速度的に速くなり、従来の枠やセクショナリズムにとらわれない柔軟な思考力がますます必要とされています。変化に対応できる行動力も必要不可欠です。このような変化への対応にはもちろん多くの経験が必要ですが、京都薬科大学での教育・研究が想定外の事態にも柔軟に対応できる基礎的能力を磨くことに役立つことを願っています。この教育・研究の実践のために教職員が不断の努力を継続することを目標に置きつつ新たな1年を迎えたいと考えています。

これからの薬学領域のリーダーを目指す皆さんにとって、新しい年が変化に満ちた実り多い1年になることを願っています。本年が、学生・教職員の皆様にとって素晴らしい年になることを祈念し、年頭の挨拶とさせていただきます。

新任のご挨拶



創薬科学系
薬品化学分野

いわもと なおや
助教 岩本 直也

2024年10月1日付で、薬品化学分野の助教に着任いたしました。私は京都大学薬学部薬科学科を卒業後、同大学院薬学研究科に進学し、2024年9月に博士（薬科学）を取得いたしました。また、4年制薬学部出身ではございますが、大学院在籍中に薬剤師免許を取得しております。これまでに、タンパク質の化学合成と機能解析をベースに、生合成が困難な特

殊タンパク質の創薬応用を目指し研究を行ってまいりました。

私は学生時代、周囲の環境から自身の興味関心を刺激され、勉学・研究に対する主体的な態度を身につけるきっかけをもらいました。この経験から、私自身もまた学生の意欲を刺激しそれに応えられるような存在となることで、場面を問わず社会的責任感を発揮できるような人材の育成に寄与していきたいと考えております。

浅学の身ではございますが、本学の発展に貢献できるよう教育・研究に邁進してまいります。ご指導ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。



事務局
企画・広報課

くぼ つぐみ
事務員 久保 亜未

2024年10月1日付で企画・広報課へ配属となりました。この場をお借りして皆様へご挨拶申し上げます。

前職では、ペットフード・用品の商社に勤務し、学生への会社説明会やインターンシップの開催などを行う採用業務に携わっておりました。前職の時から学生と関わる場面が多々あり、徐々に学生とより

深く関わることができる仕事に就きたいと考えるようになり、その想いを実現できる機会をいただけたことを大変嬉しく思います。

社会人としてもまだまだ未熟であり、教育や薬学の知識も全くないため、初日は不安でしたが、優しい皆様のおかげで緊張も解れ、次第に業務への理解ができてまいりました。本学の魅力を学内外に発信し、在学生、地域の方の愛着のある学校として存在し続けられるように努めます。

一日でも早く一人前になれるよう、知識や情報を吸収し、様々な業務に取り組んでいく所存です。本学の発展に貢献できるように努めてまいりますので、皆様のご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



事務局
実務・生涯教育課

なかむら しょうへい
主事 中村 尚平

2024年11月1日付で実務・生涯教育課へ配属となりました。この場をお借りして、皆さまへご挨拶申し上げます。

2016年に大学を卒業後、愛知、大阪の私立大学で学生募集や大学、病院広報業務に携わってまいりま

した。実務実習、生涯教育、リカレント教育という未経験の業務に携われることに緊張がある反面、大変興味深く身の引き締まる思いです。一日でも早く業務に慣れて皆様の力になれるよう精進してまいります。

出身は静岡県、浜名湖のすぐそばで育ち、そこから西へ西へと移動してまいりました。様々なジャンルの音楽を聴くのが好きで、ライブにも久々に行きたいなと思っている今日この頃です。

本学の発展に貢献できるよう努めてまいりますので、何卒ご指導ご鞭撻の程よろしくお願いいたします。

News 人事

採用

創薬科学系薬品化学分野 助教 岩本 直也
(2024. 10. 1～2029. 9. 30)
事務局企画・広報課 事務員 久保 亜未
(2024. 10. 1付)
事務局実務・生涯教育課 主事 中村 尚平
(2024. 11. 1付)

配置換

事務局会計課 事務員 富松 南月
(前 事務局企画・広報課)
(以上2024. 10. 1付)
事務局調達検収室 係長 佐原 和美
(前 事務局入試課)
事務局入試課(兼)国際交流推進室 主査 北田 彩
(前 事務局実務・生涯教育課(兼)国際交流推進室)
(以上2024. 11. 1付)

再任

基礎科学系 数学分野 教授 上野 嘉夫
(任期：2024. 10. 1～2026. 3. 31)
生命薬科学系 生化学分野 助教 幸 龍三郎
(任期：2024. 10. 1～2029. 9. 30)

退職

創薬科学系薬化学分野 助教 浜田 翔平
(2024. 08. 31付)
事務局会計課 主事 中西 弘樹
(2024. 09. 30付)

News 2024年度動物慰霊祭

庶務課

10月29日（火）に、本校地の動物慰霊碑前において、2024年度動物慰霊祭を執り行いました。当日は、当麻寺の増田宗雄住職をお迎えし、読経をいただきました。

木曾理事長、赤路学長、西口副学長、秋葉バイオサイエンス研究センター長をはじめ職員、多くの学生が次々と焼香をし、日頃教育・研究に貢献をした多くの動物達に感謝と慰霊の念をこめて冥福を祈りました。

1. ホームカミングデーイベントの実施について

京薬会では、京薬祭期間中の11月3日(日)午後14時～16時に京薬創立140周年記念ホームカミングデーを開催しました。前日の荒天の影響もあり会員48名の参加となりました。大学の近況について赤路学長から講演いただくとともに今回は「京薬会ネットワーク構築に向けた新たなチャレンジ(京薬会は今変わろうとしています!)」をテーマに京薬会のあるべき姿を「ビジョン」として明確にすること、会員間のネットワーク「京薬会リンク」事業、広報戦略等の現在取り組んでいる内容、その進行状況を会員の皆さんに説明し、意見交換を行いました。また、学祭模擬店を利用して参加者が交流を深めました。午前中には京薬祭実行委員会(学生)と協働して「在学生とOB/OGとの交流懇談会」を開催しました。学生29名、講師としてOB/OG16名が参加し、職種等の分野ごとにグループに分かれ、卒業後の進路選択や就職後の現場事情など学生からの質問にOB/OGが本音の話をしてくれました。

2. 駅伝大会に今年も「ぜんざい」が一役発揮

11月30日に開催された駅伝大会に京薬会は「京薬会賞」で協賛しました、また、レース後に恒例となった「ぜんざい」を振舞い、選手の心身をほっこり癒してくれました。



ホームカミングデーの様子



説明・意見交換会の様子



駅伝大会でのぜんざい提供

3. 歴史資料室だより

★本年は薬草園開園100周年★

本学(当時は京都薬学専門学校)の山科移転は1932(昭和7)年ですが、それに先だって1925(大正14)年に山科御陵に薬草園が初めて開園しました。それにふさわしい企画を検討しています。

★『愛学躬行歴史資料室レター』No. 5を発刊しました★

本学の起点校である京都私立独逸学校(1884年創立)の創立者の一人、2代目校主となった原口隆造について紹介しています。現在の佐賀県にあった小城(おぎ)藩の藩医の子弟ですが、京都でルドルフ・レーマンからドイツ語や理化学を学び、さらに医療方面に進むなど、草創期の京都のドイツ語教育や医薬史を語るうえでも欠かせない人物です。右のQRコードからアクセスできます。



★東京にも創られたレーマン会★

1911(明治44)年12月9日に東京でレーマン会が創られたことが、当時の新聞記事などから明らかになりました。会員は、現在の東京大学教養学部の前身校や独逸学協会学校(現在の獨協中高等学校や獨協大学の前身校)でのレーマンの教え子たちです。発起人には建築家の伊東忠太、児童文学者の巖谷小波(いわや さざなみ)らの名も見られます。新聞記事からはレーマンが多くの人たちに慕われていたことがわかります。

★東京に残るルドルフ・レーマンの名が刻まれた石碑★

東京都千代田区平河町にある砂防会館入口脇のソテツの前にルドルフ・レーマンの名が刻まれた石碑を確認しました。砂防会館の敷地には、現在は港区赤坂にあるOAG(オーアゲー・ドイツ東洋文化研究協会)の建物が建っていました。レーマンがOAGの会長をつとめていたこともあり、レーマン家からソテツが寄贈されたのでしょう。日付の1935(昭和10)年6月24日は、ルドルフの妻ベンが1932年に亡くなって3年目の祥月命日です。ただ一人日本に残って母と暮らしていたToni(おタニ)が父の思い出にと寄贈したと推測されます。



砂防会館前の
レーマン記念碑

愛学躬行歴史資料室長 鈴木 栄樹

新校舎建築工事がスタートしました

京都薬科大学の教育・研究環境の更なる充実を目的として、躬行館（図書館棟）北側に地上4階建ての新校舎を整備することが決定し、昨年11月から建築工事がスタートしました。新校舎建築工事の工期は2024年11月からの16カ月を予定しており、2026年2月竣工予定です。2026年度前期から、学生の皆さんの教育・研究活動の場として供用が開始される予定です。

新校舎には大人数の学生が共に学び合える450名収容の大講義室、先端的研究の核となる「シナジー研究施設」、学生の学びを支える「ラーニングサポートセンター（仮称）」、学生実習室の設置を予定しています。

施設課長 中谷 庄吾

Feature article.



新校舎の外観



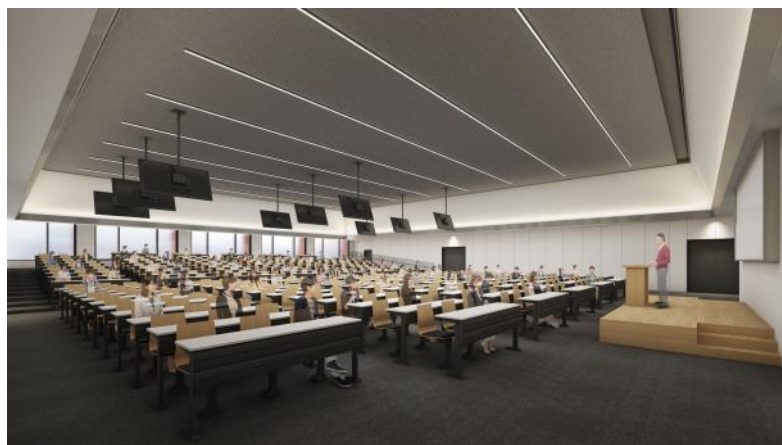
新校舎内部のプロムナード



中央庭園からみた新校舎外観

■建物内部の様子について

最大450人が繋がり共に学び合える大講義室



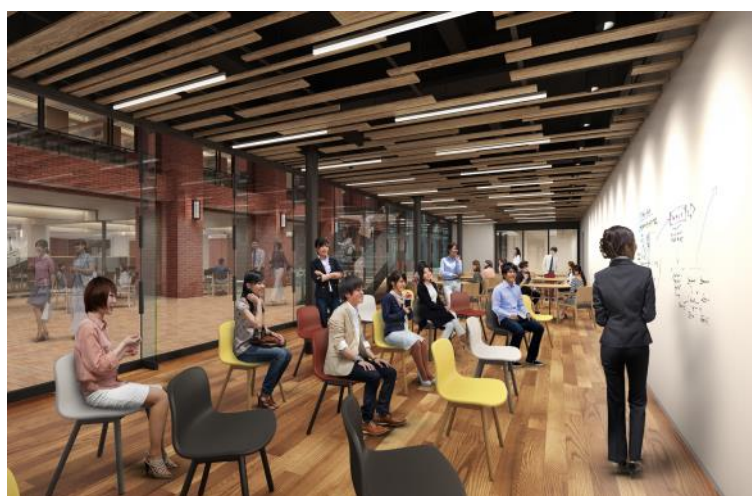
4階に設置する講義室は、450名の学生を収容できる大講義室ながら、ICTを活用した双方向型授業の展開や学生持参端末の活用にも対応し、共に学び合う場を提供できる講義室とします。また、大講義室は他講義室との連携性を有し、本学の新たなランドマークとなるホールとして、各種シンポジウムやオープンキャンパスなどの主会場の役割も担うことが期待されます。

先端的研究を推進する「シナジー研究施設」の設置

本学の先端的研究を推進するためのネットワーク型共同研究基盤の整備・強化を目的とした「シナジー研究施設」を、3階に設置いたします。本研究施設の設置により、オリジナリティーの高い研究成果の創出と本学教育プログラムへの還元を目指します。加えて、「シナジー研究施設」は、大学院生やポストドク研究者に研究交流の場を提供することにより、「研究の京薬」の中心的役割を担うことも目指します。



学修支援組織の集約により、学部教育を支える「ラーニングサポートセンター（仮称）」の設置



学部教育を支える「ラーニングサポートセンター（仮称）」の設置に向けて、初年次から6年次までの学修支援を担う「薬学教育研究センター」と学部学生の実習を支える「学生実習支援センター」を、アクセスが良い新棟1～2階に集約します。2センターが連携して学生の学修を支援することで、低学年次からアカデミック・スキルを育成し、学びの可能性を広げていく教育モデルを確立します。また、「ラーニングサポートセンター（仮称）」は、プロムナードを挟む図書館機能とも有機的に連携することも目指します。

■完成までのスケジュール



■さいごに

新校舎の建築工事を皮切りに、今後、臨床薬学教育研究センター、教育研究総合センター、育心館の改修工事を行ってまいります。これら改修工事を含め、2028年3月をゴールとして本校地の教育・研究環境の整備・充実を進めていきます。工事期間中はご迷惑をおかけいたしますが、皆さまのご理解とご協力を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

《新校舎の概要》

- ◆建設場所 京都市山科区御陵中内町5番地（本校地内）
- ◆建設規模 鉄骨鉄筋コンクリート造・鉄骨造、地上4階建 建築面積 927㎡ 延床面積 3,251㎡
- ◆主要用途 大講義室（450名）、シナジー研究施設（仮称）、実習室（100名）、学生実習支援センター、薬学教育研究センター、ラーニングサポートセンター（仮称）
- ◆工事期間 新校舎建築工事期間：2024年11月～2026年2月
- ◆設計・監理 株式会社東畑建築事務所 ◆施工 大日本土木株式会社

新校舎建築工事起工式を実施しました

Report

施設課

大安吉日の2024年11月20日（水）に建築予定地にて新校舎建築工事起工式が、本学関係者および設計・施工の会社関係者が出席して執り行われました。起工式では祝詞奏上や清祓いの儀、木曾理事長による穿初の儀、玉串奉奠などが行われ、工事の安全を祈りました。



起工式会場



木曾理事長による穿初の儀



赤路学長のご挨拶

臨床薬学教育研究センター 教授 きただ のりあき 北田 徳昭

『律令国家前夜』

—遺跡から探る飛鳥時代の大変革—

前園実知雄 著

新泉社 (2022年)

本学の住所は「京都市山科区御陵中内町」。我々世代が歴史で習った頃は「大化の改新」、今の教科書では「乙巳の変」というそうですが、本学の関係者であれば、その政変の主人公の一人、中大兄皇子（のちの天智天皇）の陵墓に由来することはご存知でしょう。天智天皇といえば、百人一首一番の歌、“秋の田のかりほの庵の苫をあらみわが衣手は露にぬれつつ”が有名ですね。

厩戸皇子の幻の斑鳩京から飛鳥京を経て天武・持統天皇の藤原京へ。その国づくりは、王家の皇子たちによって受けつがれました。理想の国家をめざして熾烈な戦いに身を投じ、命をかけた中大兄皇子をはじめと



する皇子たち。本書は国づくりに携わった彼らの熱い思いを遺跡からたどるものです。飛鳥板蓋宮、甘樫丘、飛鳥寺、石舞台古墳などが点在する飛鳥京、天武・持統天皇らが夢を馳せた藤原京などにまつわるエピソードも紹介されています。持統天皇といえば、これまた百人一首二番。“春すぎて夏来にけらし白妙の衣ほすてふ天の香具山”。この歌は、ある年の初夏、持統天皇が藤原京から天の香具山を見て詠まれたものといひます。「朝廷」や「朝礼」という語も、「天皇」という称号も、そして「日本」という国号も飛鳥に続く藤原京で作られました。また、「律令」政治の始まりの地。律は刑罰について定めた規則、令は政治の仕組みに関する規則を表します。まさに、この国の礎が築かれた飛鳥・藤原京。大和は国のまほろば。大陸文化を取り入れ、多くの古人が希望に溢れ、未来を夢見た時代であったということが言えるのではないのでしょうか。

「飛鳥・藤原」は、日本国家のはじまりを示し、古代日本で国際交流があったことを示す貴重な資産です。奇しくもこの地は2026年の世界遺産登録を目指すといひます。「飛鳥・藤原の宮都とその関連資産群」、世界遺産登録で世間が湧く前に、本書を手に取りぜひ古代日本の姿に想いを馳せてみてはいかがでしょう。

事務局 教務課 もり ようすけ 森 洋介

『風のマジム』

原田マハ 著

講談社 (2014)

この小説は、2004年に沖縄電力の社内ベンチャー制度を使って初めての国内原料による沖縄県産ラム酒製造を実現した、金城祐子さんをモデルとした小説です。

主人公は、携帯電話会社「琉球アイコム」で働く派遣社員、伊波まじむ。ある日、仕事のことと悩んでいたまじむは、おばあからカフェバーに呼び出され、あるお酒を紹介されます。風が育てた酒、ラム酒です。そして、おばあはまじむに次の言葉をかけます。

「まじむ。お前も、育っていけ。いいことも悪いことも、全部(むる)、風に吹かれれば、何とかなるさ(なんくるないさ)」



ラム酒は、サトウキビから作られる風の酒。沖縄人が世界に誇る特産品のサトウキビから作られているのに、沖縄ではラム酒が作られていない。まじむはこの現状を打破し、純沖縄産ラム酒を作りたいと考え、社内ベンチャーコンクールに製造販売事業を提案し採用されます。

そして、まじむは南大東島のサトウキビを使った「アグリコール・ラム※1」をつくるために、南大東島の島民、醸造家、勤務先の同僚、カフェバーのマスターなど様々な人の協力を得ながら、悩みながらも持ち前の明るさと突破力で、夢の実現に一步步進んでいく物語です。

困難なプロジェクトの成否を分けるのは、メンバーがそのプロジェクトにどれだけ「真心(まじむ)」を込めて取り組めるかであるということを改めて認識させてくれた小説でした。そして、壁に当たってしまった時には、「いいことも悪いことも、全部(むる)、風に吹かれれば、何とかなるさ(なんくるないさ)」という切り替えを行うことの大切さも。新たなチャレンジを考えている学生の皆さんにお勧めしたい小説です。

※1 サトウキビの糖蜜からではなく、搾り汁100%をそのまま発酵させてつくるラム。サトウキビの収穫時期に合わせて作られるため希少性が高く、また年度ごとの微妙な味の違いも楽しめる。

学生課

新しい京葉祭の形を目指して

今年度、京葉祭実行委員長を務めさせていただきました菅です。本年度の京葉祭が無事に成功を収め、多くの方々に楽しんでいただけたことを心より嬉しく思います。そして、この学祭を支えてくださったすべての方々に、深く感謝申し上げます。

今年の京葉祭は、例年以上に多くの挑戦を重ねた1年でした。アーティストライブの動員数拡大、研究室の模擬店参加、京葉祭前日に行った運動会の開催、さらに躬行館でのステージと模擬店の実施など、これまでにない試みを数多く取り入れました。それぞれが初めての取り組みであり、試行錯誤の連続でしたが、実行委員一同が一丸となって力を合わせ、成功へと導くことができました。

アーティストライブでは、SHISHAMOさんをお招きし、例年以上の規模で開催しました。動員数を拡大するためにチケット販売の仕組みを見直し、警備にも力を入れるなど、多くの新しい試みを行いました。本番では、観客の皆様が笑顔でライブを楽しみ、一体感に包まれる会場の様子を目の当たりにし、この挑戦が実を結んだことを実感しました。

また、躬行館でのステージと模擬店の実施は、学内のさらなる活用と京葉祭全体の広がりを生む取り組みとなりました。新たな空間で多彩な企画を展開することで、来場者の皆様に新鮮な体験を提供できたのではないかと思います。

さらに、京葉祭前日に行った運動会は、参加者同士のつながりを深め、学祭に向けた一体感を高める場として開催しました。雨の中での実施となりましたが、参加者一人ひとりが協力し合い、楽しむ姿が印象的で、学祭本番への大きなエネルギーとなりました。この運動会を通じて、京葉祭が人と人をつなげる場であることを改めて実感しました。

準備期間から本番まで、3年次生を中心に多くのメンバーが主体的に行動し、協力し合う姿勢が学祭の成功を後

すが さやか
実行委員長 菅 紗也佳

押ししました。当日も、幹部メンバーだけでなく、全員が自分の役割を全うし、仲間と共に全力で取り組む姿を見て、一緒に学祭を作ることの素晴らしさを強く感じました。また、1、2年次生の後輩たちが自分たちで考え、積極的に動いてくれたことも、大きな力となりました。

今年の京葉祭を通じて、たくさんの挑戦を重ね、多くの学びを得ることができました。この経験は私にとってかけがえのないものです。そして、これからも京葉祭が多くの人に愛される学祭として発展していくことを心から願っています。

最後になりますが、京葉祭を支えてくださった学生課の皆様、協賛企業の皆様、そしてご来場していただいたすべての皆様に心から感謝申し上げます。本当にありがとうございました。



実行委員会メンバー

京葉祭成功の裏側で

今年度、副実行委員長を務めさせていただきました田中です。振り返ると、今年の京葉祭は多くの方々のご協力のもと、非常に充実した内容で開催することができました。特に、運動会を京葉祭前日に実施したことは、参加者同士の結束を深める良い機会となりました。学生たちが協力し合い、楽しむ姿を見て、私自身も大変励まされました。



幹部の仲間たち

たなか せりう
副実行委員長 田中 芹生

また、今年の京葉祭ではアーティストライブや模擬店の規模を昨年度よりも大幅に拡大し、バラエティ豊かな内容を用意しました。特にアーティストライブでは、人気のあるSHISHAMOさんをお招きすることができ、来場者の皆様に素晴らしいパフォーマンスを提供できたことを心から嬉しく思っています。ライブの準備を進める中で、出演者とスタッフが一丸となって取り組む姿勢を目の当たりにし、感動を覚えました。

私の役割は主にサポート業務でしたが、後輩たちが私の名前を覚えてくれたり、楽しんでくれたりする姿を見て、喜びを感じる瞬間がありました。アーティストライブの際には、警備として会場の後方から周囲を見守りながら、外部のお客様や学内生がライブを心待ちにしている様子を見て感動しました。特に、ライブが始まった瞬間の会場の盛り上がりは、私にとって忘れられない思い出です。

今年度の京葉祭は大雨に見舞われる中での開催となりましたが、1、2年次生たちが慣れない環境の中での

ステージ企画を見事に成功させたことには感激しました。彼らの努力と情熱があったからこそ、来場者の皆様楽しんでいただけたのだと思います。

最後になりますが、京薬祭を開催するにあたりご尽力いただいた全ての方々に厚く御礼申し上げます。多くの方々の支えがあってこそ、今年度の京薬祭を成功させることができました。来年度以降も京薬祭がさらなる成功

を収めることを願っております。新たな企画やさらなる発展を目指し、実行委員会一同、引き続き努力してまいりますので、これからも京薬祭と実行委員会をどうぞよろしくお願い致します。皆様の温かいご支援があればこそ、私たちの活動はより豊かに、より多くの人々に喜びを届けることができると信じています。

挑戦と感謝の京薬祭

さいとう もい
文化部長 齋藤 萌生

今年度、文化部長を務めさせていただきました齋藤です。

私の主な役割は、イベント会社との連絡を担当し、京薬祭の運営について幹部や学生課、イベント会社と協力して話し合うことでした。今年度のアーティストライブでは、知名度の高いアーティスト



待ちに待ったアーティストライブ！

を迎え、京薬祭を盛り上げることを目標としました。そのため、動員数の拡大や学内チケットの販売など、これまでにない新しい試みを行いました。

京薬祭に向けて、アーティストライブの運営について多くの不安を抱えながら活動期間を過ごしていました。しかし、京薬祭が始まると、あっという間に2日間が過ぎ、無事に開催することができました。特に、SHISHAMOさんのライブでは、実行委員の協力のおかげで、無事に成功を収めることができました。みんなで一丸となって運営できたことがとても嬉しかったです。ライブが始まり、観客の皆さんが笑顔で楽しむ姿を見た瞬間、1年間

文化部長として頑張ってきたことを実感し、思わず涙が溢れました。

一から作り上げることは、決して容易なことではありませんでしたが、幹部をはじめとする3年次生や先輩方、そして後輩の皆さん、さらには学生課の方々の多大なるサポートがあったからこそ、成功に導くことができました。この場をお借りして感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

新しいことに挑戦し、何度も失敗を重ねたこの1年間は非常にやりがいがあり、貴重な経験となりました。来年度以降も京薬祭が多くの人々の心に残る行事であり続けることを願っています。



アーティストに向けたメッセージボード

News 第110回薬剤師国家試験の概要

学生課

第110回薬剤師国家試験は、次のとおり実施されます。

試験日	2025年2月22日（土曜日）及び同月23日（日曜日）
試験地	北海道、宮城県、東京都、石川県、愛知県、大阪府、広島県、徳島県及び福岡県
試験科目	[必須問題試験] 物理・化学・生物、衛生、薬理、薬剤、病態・薬物治療、法規・制度・倫理、実務 [一般問題試験] ・薬学理論問題試験 物理・化学・生物、衛生、薬理、薬剤、病態・薬物治療、法規・制度・倫理 ・薬学実践問題試験 物理・化学・生物、衛生、薬理、薬剤、病態・薬物治療、法規・制度・倫理、実務
合格発表	2025年3月25日（火曜日）午後2時に厚生労働省ホームページの資格・試験情報のページにその受験地及び受験番号を掲載して発表されるほか、合格者に対して合格証書が郵送されます。

*詳細は、厚生労働省ホームページ「第110回薬剤師国家試験の施行」をご参照ください。
https://www.mhlw.go.jp/kouseiroudoushou/shikaku_shiken/yakuzaishi/

図 書 館

今年度も学生の皆さんからのアンケートをもとに134冊の図書を教育後援会よりご寄贈いただきました。毎年、新しい文芸書が書架に並ぶことを楽しみに待っている方も多く、京都のお隣・滋賀県大津市を舞台にした青春小説『成瀬は天下を取りにいく／宮島 未奈』や直木賞受賞作『ツミデミック／一穂 ミチ』等、早速、貸出が続く人気ぶりです。

他にも、今年大河ドラマ「光る君へ」をより楽しめる源氏物語の世界を紐解く図書をはじめ、海外旅行を楽しむためのガイドブック『地球の歩き方 aruco』シリーズ、希望の声が多く寄せられていた『はたらく細胞』等、これまでまったく興味がなかったジャンルの図書でも思わず手に取ってみよう！と思わせるラインナップとなっています。

また、今でも根強い人気を誇る『Harry Potterシリーズ』の原書も全巻揃っていますので、英語学習に役立つこと間違いなしです。

寄贈図書の一覧は、図書館ホームページ（URL:<https://lib-opac.kyoto-phu.ac.jp/opac/category/5>）でご確認いただけます。借りたい図書が貸出中でも簡単に予約できますので、ぜひ気軽にお立ち寄りください。



教育後援会寄贈図書コーナー

本学図書館の開館日程についてはホームページをご覧ください。
<https://www.kyoto-phu.ac.jp/library/>



大学院生を対象とした研修会を開催しました

Report

教務課

2024年9月6日（金）17時から、躬行館講義室において、大学院生を対象とした研修会を開催しました。研修会は大学院生や次年度大学院進学予定者を対象に、第1部は「プレFD※」、第2部は「助成金獲得に向けて」とし、現役大学院生が聞きたいことを代表者がインタビューする形式で実施しました。

第1部は、若手教員へ、数々のキャリアの中から大学教員を志した理由や時期、大学教員を選ぶ決め手となった出来事などを伺いました。

第2部は、長井記念薬学研究奨励支援事業や日本学術振興会特別研究員に採用された経験のある教員や現在特別研究員に採用されている大学院4年生へ、申請書作成で大切にしたい点、自身の強みのアピールの仕方、参考にした書籍などを伺いました。

参加者からは他にも、後輩学生の指導方法や研究へのモチベーション維持、申請書作成への不安などが挙げられ、回答者自身も試行錯誤している中で、少しでもヒントになればと自身の経験を踏まえてアドバイスしていました。参加者は熱心に聞き入る様子がみられ、研修会終了後には、学生と教員、学年や所属分野を超えた賑やかな交流会を開催し、参加者の笑顔が溢れる中、盛会のうちに終わりました。

大学院では、分野横断的な交流を推進し、大学院生の財産となる人的関係の強化、それによるシナジー効果を期待し、今後も対面での研修会等を開催していく予定です。

※プレFDとは、大学教員を目指す大学院生に対する教育能力を身に付けるための取組のことですが、本研修会では社会に出て指導的立場となった時にも役立つものとして、大学教員を目指す学生に限らず、広く大学院生を対象として開催しました。



研修会の様子

触媒の研究にはロマンがある。

まつやま ちなつ
松山 千夏



2023年 学部卒業
(薬化学分野)

シオノギファーマ株式会社
工業化技術部

京薬を卒業して1年半。大学入試の面接で将来は薬局薬剤師になりたいと語った私は今、製薬会社で薬を作る方法を日々検討しています。入学試験の志望動機を書いていた高校生の自分は想像もしていなかったでしょうね。不思議です。幼い頃から1つの夢をまっすぐに追いかけてその夢を叶えることができたなら世間ではよかったねと言ってくれるでしょうが、何を仕事とするかは変わっていてもいいと思います。大学生活6年間で多くのことを経験して色々考え方も変わっていくものですから。

ところで、今の私がこの仕事に就いているのは研究室での活動や古田先生の影響が大きいと考えています。古田先生との出会いは2年次生の時、講義の板書が分かりにくいと友人と一緒にわざわざ教授室まで言いに行ったのが始まりです。アポなしで。それでも先生は時間を割いて私たちの話を聞いてくださ

り、翌週の講義には早速要望を取り入れられていました。当時の私はそれだけでも十分感動したのですが、なにより嬉しいのは、このことを先生が覚えていてくださり、このエピソードを会う度に話して下さることです。

私は有機化学に興味があったということもあって、研究室配属の際には迷わず薬化学分野を選択しました。自分で新たな化合物を作り出すことや反応を制御する触媒の開発はすごくロマンがあると感じました。研究室では、思ったように反応が進まなかったり、学会発表の前日まで実験してデータを集めたりと大変に思うこともありましたが、今ではかけがえのない経験だったと言うことができます。古田先生のご指導は決して優しいとは言えなかったのですが、研究のことについて話している時は熱心で本当に楽しそうに見えました。私がやっているこの研究にも期待してくれていると感じ、私も頑張ろうと思えました。

研究室は大学生活の中でも将来を考える上で重要な経験を得る場だと思います。研究室配属前にはホワイトだとかブラックだとか、就職に有利だとか、そういう噂が流れますが、そういったことよりも自分が少しでも興味のある分野、知識と研究の素晴らしさを教えてくれる先生や先輩のいる研究室を選択するのが大切だと思います。そこでの経験が自分の将来に大きく関わることもあるでしょうから。皆さまの大学生活が実りのあるものになることを願っています。私もたまには研究室に顔を出して初心にかえりたいと思います。

2025年度学校推薦型選抜結果

Report

入試課

2025年度学校推薦型選抜の内、指定校制は2024年11月11日（月）に、一般公募制は11月16日（土）に実施され、12月2日（月）に合格発表が行われました。

結果は右記のとおりです。

	募集人員	志願者数	合格者数
指定校制	50名	48名	48名
一般公募制	90名	256名	106名

KPU_{NEWS}では、学生・職員の趣味や活動などを「十人十色」と題して幅広く紹介しています。
学生・職員の皆様からの寄稿をお待ちしております！

悠々自適に挑戦してみて

放射性同位元素研究センター 3年次生 わくだ さき
和久田 沙希

この十人十色のコーナーに寄稿させてもらえるということで、私は困ってしまいました。一体全体、どんなことを書けばいいのかな？と思いあぐねた結果、この十人十色のコーナーを見返してみることができました。（京葉のHPで、歴代のKPU_{NEWS}を見ることができるのです）そうしたらまあ、皆様、色んなことに挑戦されたりしている！

一風変わったことに精を出している私が、お恥ずかしながら活動の内容を紹介させていただきます。これを読んでいただいている方におかれましては、「京葉にもこんな事をしてる、ヘンテコリンなやつがいるんだなア」、と思っただけで幸いです。

【新撰組隊士 山崎丞の足跡を求めて】

私は、偏りがある歴史好きです。私にとって、幕末～明治初期の時代は激アツです。激動の時代にこそ、その時代の人達の“生きようとする気持ち”や“行動”が試されているようで、面白いですよ。その時代に生きた、私の推し「山崎丞（やまざきすずむ）」について紹介させていただきます。山崎さんは新撰組隊士です。

新撰組というのは、江戸時代の終わりに京都で活動していた警察集団です。徳川幕府のために、薩摩や長州によるテロ活動を取り締まっていました。新撰組隊士の多くは武士ではなく、町民や農民出身です。彼らは新撰組に入隊することで、国の政治に関わることができる特別な身分を得ようとしたのです。しかし、最終的には徳川幕府は滅亡し、新撰組も敗走することとなるのです。

現代では新撰組はアニメやドラマと、もてはやされていますよね。ですが2000年代の現代以前では、新撰組の子孫の方でも新撰組の「し」の字も口に出せない時代だったそうです。そりゃあ、明治政府（＝現在の日本政府）にとっては、新撰組は賊軍ですからね。

そんな新撰組隊士の山崎丞。新撰組に入隊する前、彼は町医者をしていたと言われています。彼は命を救う側の“医療従事者”であったのです。そんな彼は、どうして“人斬り集団”に加入したのか、仲間の隊士達が切腹をして命を失っていくことをどう思っていたのか。そんなことを考えたりするのがアツいところです。以下では山崎さん作の短歌を一句紹介させていただきます。

大樹公御進発二付 詠ミ歌

（慶応元年＝1865年に將軍徳川家茂が長州征伐のために京都に来たときに読んだ歌）

ミにへもつ浪花の海士の それならて ねになくかりそ 外かなりける

現代語訳：徳川幕府のために立派に戦う新撰組隊士が、白波が砕けて散るように死んでいく。声を上げて泣きながら、春を迎えずに死んでいる。彼らの命が失われることは無駄なことだなあ。



新撰組隊士慰霊碑

この歌は、私が東京の日野図書館で写したものです。この歌の訳はどこにも載ってなかったので、私なりに現代語訳をしました。不明瞭な部分が大いにあると思いますが、ご容赦ください。

どうですかね？皆さんは歌から何を感じるでしょうか？私には、学識の高さと思慮深さがヒシヒシと伝わってきます。医師としての社会経験もあり、関西の土地勘があった山崎さんは、隊内でも重宝されたのでしょうか。

【鉄道路線に思いを馳せて】

私は偏りがある歴史好きということで、明治初期の時代は大好きです。「富国強兵」「殖産興業」を掲げて日本を発展させ、列強を追い抜け！追い越せ！と、頑張りがすごいですよね。鉄道敷設が、明治時代の幕開けとともに始まります。この時代に日本に鉄道を走らせるなんて、途方もない苦労があったでしょう。1868年に明治時代が始まり、1872年に現東海道本線の新橋駅～品川駅区間が開業します。すごい頑張ってますよね。応援したくなりますよね。

明治政府には、東海道と中山道の2つの鉄道路線の考えがありました。太平洋沿いの東海道に比べて、中山道は本州の内陸を通ります。よって山の起伏が激しい中山道は、敷設が困難です。しかし、だからこそ当時は中山道鉄道による内陸地方の活性化が目指されたのです。

そんな中山道鉄道ですが、やっぱり山岳地帯の工事が困難で中止。日本の幹線は、今に続く東海道本線になったのです。そんな日本最初の鉄道である東海道本線は、今年で153周年！人や物資を輸送して、日本という国を支えてきました。走って走って走り続けてきたことでしょう。長い年月の中、変化したこともあります。現在では日本の旅客輸送の大動脈である、東海道新幹線が登場。リニアの工事も進められています。

今なお交通システムとして重要な役割を果たし、人々の生活を支えている鉄道路線に思いを馳せてみるのも、一興ではないでしょうか。ちなみに私が好きな路線は、JR西日本なのにICOCAが使えず、運行が数時間に一本で、一両編成で走っちゃったりする赤字路線の岩徳線です。



慰霊碑の側面にはお名前がありました



地下鉄の父 早川徳次

【手引きボランティアに参加してみて】

このボランティアは、目が見えない・見えにくい方の外出時に手引きをして、安全な移動をサポートするボランティアです。ボランティア団体は大阪にあり、関西近辺での活動になります。私がこのボランティアに参加したきっかけは、京都駅で白杖使用者の方を見かけたからです。その方は、黄色い点字ブロックの上に置かれたスーツケースにぶつかってしまっていました。私はその方を助けたい・お手伝いしたいとは思いましたが、どうやって声をかけたらいいのかが分からず、ただ見ているだけしかできませんでした。このボランティア登録時には手引の講習も受けられるので、そんな訳で私はこのボランティアに参加したのです。

講習では自分が目をつぶり、他のメンバーによる手引きを受ける場面がありました。そのときは雨が降っており、濡れた地面は滑りやすかったです。そんな状況で、自分の目で進む先を確認することができないのは、とても怖かったです。実際に自分がこのような経験をすることで、視覚に障害を持つ方が外出することの大変さを学ぶことができました。また、手引きボランティアとしてのサポートをすることの責任を重く感じました。

実際に、手引のボランティアにも何度か参加しました。以下では一例を紹介します。利用者は私と同じ年代ぐらいの女性の方で、音楽ライブに同行した時のことです。ボランティア利用者の方に、その方が持っているペンライトを「一緒に振ってくれないか」と頼まれました。その方は全盲で、会場が一体となって振っているペンライトの振り方が分からないのです。私が見たアーティストのファンサのことを伝え、とても喜んでもらえました。その方に、他のファンの身につけているグッズのことを尋ねると、詳しく解説してもらいました。

ボランティアとしては、他にも日本語教師ボランティアとして活動しています。大学Webサイトで紹介いただいているので、良ければそちらもご覧ください。

このコーナーのタイトルのように、世の中には色々な人がいて十人十色。私には、こうして実際に当たり・触れたりして、初めて知った世界がたくさんあります。自分の知らない世界があることを面白がって、私はこれからも行動していきたいなと思います。

2024年度 防災（避難）訓練を実施しました

Event

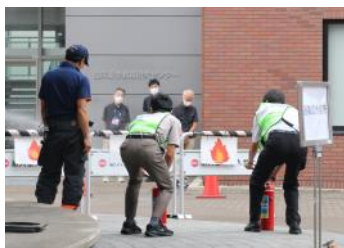
施設課

2024年10月16日（水）本校地で山科消防署の協力のもと京都府南部で震度7の地震およびそれに伴う火災が発生したことを想定した総合防災訓練を行いました。今年度は中央庭園が仮設駐輪場設置のため狭くなっていることから本学で初めて訓練を行う1年次生のみを対象としました。教職員は、学生の避難誘導や119番通報など各自の役割を認識しながら訓練に臨みました。また、スマートフォン等を利用した安否確認システムによる安否確認訓練については、全学での実施を行いました。その後、赤路学長および山科消防署から「近年災害が各地で起きているが自分のことのように考えて訓練し、日々の備えを大切にしてほしい」との講評をいただき訓練が終了しました。終了後には山科消防署の協力により消火器における消火体験を行いました。取扱方法等をしっかりと指導していただき、いざという時に迅速に対応できることと思います。



本校地防災訓練の様子：中央庭園

南校地の防災訓練については11月6日（水）に南校地所属員全員で実施しました。避難経路については各所属内で事前に確認し、訓練に臨みました。火元である創薬科学フロンティア研究センターでは火災報知器を発報させ、警報音の中、無事避難を行うことができました。避難後は西口副学長と山科消防署からの講評があり訓練終了となりました。終了後は山科消防署の指導の下、消火器における消火体験や消火ホースによる放水体験を行いました。事前説明の中で一般的な粉末消火器の放射時間は約15秒であること、消火剤には粉末だけでなく二酸化炭素などもあり、設置場所により種類が異なることを消防隊の方から聞き、学生・職員の驚く様子がうかがえました。体験後、学生からは「今まで使用したことがなかったので、貴重な体験ができた」との声がありました。また、放水体験では、屋内消火栓からノズル付ホースを取り出して延長するところから放水までを行いました。今回の訓練では災害に備え、役割の認識や設備の使用方法を事前に確認し、有事の際に冷静な判断ができるような準備を行うことができました。日常生活の中で研究室や講義室・実習室、実習先の施設等において、安全な避難経路や消火器具の確認等を行い、自身や周囲の方の身を守れるようにしていきたいと思っています。



消火器による消火体験：
中央庭園



南校地防災訓練の様子：
警備員室前



ホースによる放水体験：
南校地

■2025年度生涯研修プログラム 概要

2025年度の生涯研修プログラムは、変容した昨今の受講状況に鑑み、一部研修会の見直しを行いました。卒後教育講座の実施形態の変更、アカデミックスキル基礎講座の新規開講、漢方講座の完全eラーニング化等、新たな私たちで現場のニーズに対応したプログラムを実施していきます。皆様のご参加・お問合せをお待ちしています。
※本学学生は聴講無料ですので、ふるってご参加ください（4月以降manabaに掲載します）。

京都薬科大学 生涯教育センター 2025年度年間プログラム

卒後教育講座

現場のニーズと社会情勢に応じた
全ての薬剤師に必要な知識を学ぼう

2025年度の卒後教育講座は、対面のみ2日間と、ご都合にあわせて受講できるeラーニングを組合せました。対面講義も事後オンデマンド配信しますので、繰り返し復習できます。また欠席した場合は、eラーニングで単位取得が可能です。授乳婦やCKD、ポリファーマシーといったニーズの高いテーマの他、オーバードーズ、生成AI、RMP、災害時医療などトピックスなテーマも取り上げています。

●対面6講義 ※オンデマンド配信も有り

2025年 6/15(日)	10:00~11:30	生成AI活用術～医師による薬剤師のためのChatGPT入門を中心に～
	12:30~14:00	授乳婦への授乳：どの情報を使い、どこまで伝えますか
	14:15~15:45	RMPを基礎から学ぶ（仮）
2025年 7/13(日)	10:00~11:30	オーバードーズ ～一緒に考える、薬剤師の使命～
	12:30~14:00	在宅医療の本質と正しい薬剤師の関わり方
	14:15~15:45	地域で取り組む医療安全～患者安全のために取り組むべき課題～
●オンデマンドのみ(eラーニング)4講義		
2025年 6/1(日)～ 2026年 2/28(土) 配信	①	患者さんに伝えたい「腎臓を守ることは、命を守ること」
	②	ポリファーマシーを解消する病診連携
	③	災害時医療と感染対策～地域を守る薬剤師に求められること～
	④	漢方薬の服薬指導とアフターフォローのポイント～在宅と家庭薬膳教室の実践から～

■場所：京都薬科大学愛学館A31講義室&オンデマンド配信
■定員：200名 ■研修単位(G24)：計10単位 ■参加費：12,500円
■申込受付期間：2025年4月1日(火)～6月2日(月)

アカデミックスキル基礎講座

<基礎1：症例報告の書き方>

スキルアップの基盤となるアカデミックスキルの基本を学ぶ

薬歴や症例報告における文章の書き方の基本を学んだ後、実際に症例報告を作成して学んだスキルを実践します。教員とのフリー討論の時間もあり、具体的な相談も可能です。※2025年度新規開講です。

2025年 9/7(日) 9:30～ 16:00	1.<講義>文章の書き方(薬歴、症例報告)
	2.<演習・講義>症例報告作成 模擬症例を用いた症例報告作成、ディスカッション・症例の見つけ方
	3.相談会

■場所：京都薬科大学愛学館A32講義室 ■定員：100名(薬剤師限定)
■研修単位(G24)：3単位 ■参加費：3,500円
■申込受付期間：2025年7月9日(水)～8月25日(月)

eラーニング講座

時間と場所に縛られないマイペース受講

本年度の卒後教育講座10講義と京都漢方研究会の12講義をオンデマンド配信します。2024年度卒後教育講座と漢方講座も再配信します。配信期間中、何時でも何度でも視聴できます。ご自身のニーズに合ったコースにお申込みください。

		配信数	参加費
①全視聴コース	2025年度卒後教育講座・京都漢方研究会講義の収録動画を順次配信、2024年度卒後教育講座・漢方講座を再配信	44	30,500円
②当年度コース	2025年度卒後教育講座・京都漢方研究会講義の収録動画を順次配信	22	22,500円
③卒後コース	2025年度卒後教育講座の収録動画を順次配信、2024年度卒後教育講座を再配信	20	20,500円
④漢方コース	2025年度京都漢方研究会講義の収録動画を順次配信、2024年度漢方講座を再配信	24	24,500円

※従来の漢方講座(ハイブリッド)は開講しませんので、②当年度コースまたは④漢方コースでのオンデマンド受講をお願いします。

■配信期間：2025年6月1日(日)～2026年2月28日(土)
■申込受付期間：2025年4月1日(火)～2026年2月24日(火)

臨床推論ステップアップ講座

<入門編>

臨床推論に基づくフィジカルアセスメントの活用法と妥当性検討

実症例を用いて問診、検査値などの情報収集により診断仮説を立て、フィジカルアセスメントを活用して仮説妥当性の検証を行う過程を理解することにより、薬剤師として、安全で最適な薬物治療を目指します。

2025年 5/11(日) 10:00～ 16:00	1.フィジカルアセスメント総論 医師・看護師・薬剤師のフィジカルアセスメント目的を知ろう
	2.臨床推論に活用できる基礎知識 病態生理から明らかにする「血圧・循環・脱水・浮腫」、実施例では「循環動態」をどうイメージするか、医師による「症候学の理論」、看護師による「よくみる症候に対する看護」
	3.事例で学ぶ臨床推論 主訴から段階を踏んで行うSGD

SGDはGoogleフォームを利用した双方向での演習です。

■場所：ご自宅にてオンライン(Zoom)受講
■定員：100名(オンライン) ■研修単位(G24)：3単位 ■参加費：6,500円
■申込受付期間：2025年3月12日(水)～4月28日(月)

臨床推論ステップアップ講座

<実践編>

フィジカルアセスメントを活用した臨床推論の実践

バイタルサイン収集やアセスメントの実技実習による手技習得に留まらず、測定結果をどう評価し、患者にどう活かすかを主眼においたプログラムです。多職種の中で薬剤師としてのアセスメントの重要性を実感してください。
※今年度は秋実施です。

2025年 9/28(日) 10:00～ 16:30	1.<講義・実技実習>バイタルサイン情報収集スキル習得
	2.ランチョンミーティング ※軽食付き
	3.<講義・SGD>フィジカルアセスメントを活用した臨床推論

■場所：京都薬科大学臨床薬学教育研究センター
■定員：20名(薬剤師限定) ■研修単位(G24)：3.5単位
■参加費：10,500円
■申込受付期間：2025年3月12日(水)～9月15日(月)

実務支援セミナー

在宅医療における注射薬の設備導入とポイント

従来の丁寧な実技実習はそのままに、在宅医療に焦点を当てた内容にリニューアルしました。導入講義では在宅医療における無菌設備の基本知識やPCAポンプの使用法などを学びます。また、ランチョンミーティングを設け、参加者間で日頃の疑問等を共有する時間を増やしました。

2026年 3/1(日) 10:00～ 16:00	事前eラーニング	・注射薬無菌混合調製に必要な基本的知識 ・外来化学療法の実際
	導入講義	・無菌設備導入に関する制度改正と環境の変化 ・2024年調剤報酬改定での無菌製剤に対する報酬の変化 ・PCAポンプを使ったオピオイドの無菌調製
	ランチョンミーティング	
	実技実習	・衛生的手洗い(ラビング法、スクラブ法) ・ガウン、手袋、帽子、マスクの装着 ・注射薬混合調製(アンブル、バイアルの取扱い、薬液採取、陰圧操作) ・TPNバッグの取扱い ・ガウン脱衣
情報共有		・事前動画や実技実習に対する質疑応答 ・自施設における注射調剤の問題点や課題の共有

■場所：京都薬科大学 臨床薬学教育研究センター
■定員：20名(薬剤師限定)
■研修単位(G24)：4.5単位 ※事前eラーニング1単位含
■参加費：10,500円
■申込受付期間：2025年12月17日(水)～2026年2月16日(月)

※プログラム内容等に変更される場合があります。最新情報、詳細は必ずホームページをご確認ください。

■2025年度生涯研修プログラム申込受付のお知らせ

2025年3月12日(水)より「臨床推論ステップアップ講座」〈入門編〉〈実践編〉、2025年4月1日(火)より「卒後教育講座」の申込受付を開始します。



◇臨床推論ステップアップ講座〈入門編〉 ※本学学生・教職員無料

臨床推論に基づくフィジカルアセスメントの活用法と妥当性検討

開催日時: 2025年5月11日(日) 10:00~16:00

開催場所: オンライン配信(ご自宅にてZoom受講)

定員: 対面100名 参加費: 6,500円 認定単位: G24 3単位

申込受付期間: 2025年3月12日(水)~4月28日(月)

2025年度の臨床推論ステップアップ講座〈実践編〉は、建物工事の都合上、9月28日(日)に開催しますが、申込受付は〈入門編〉と同時に2025年3月12日(水)から開始します。



◇卒後教育講座 ※本学学生・教職員無料

現場のニーズと社会情勢に応じた全ての薬剤師に必要な知識を学ぼう

〈対面6講義〉開催日程: 2025年6月15日(日)、7月13日(日) 10:00~16:00

開催場所: 京都薬科大学 愛学館3階A31講義室

〈オンデマンド4講義〉配信期間: 2025年6月1日(日)~2026年2月28日(土)

定員: 200名 参加費: 12,500円 認定単位: G24 計10単位(1単位/演題)

申込受付期間: 2025年4月1日(火)~6月2日(月)

2025年度の卒後教育講座は、対面2日とオンデマンド(eラーニング)の混合で実施します。

■現在、申込受付期間の2024年度生涯研修プログラム

◇「実務支援セミナー」 在宅医療における注射薬の設備導入とポイント

*開催日時: 2025年2月23日(日) 10:00~16:00

*開催場所: 京都薬科大学 臨床薬学教育研究センター

*定員: 20名(薬剤師限定) *参加費: 10,500円(受講料10,000円、事務手数料500円)

*申込受付期間: 2024年12月4日(水)~2025年2月10日(月)

*認定単位: 4.5単位(事前eラーニング1単位含) 京都薬科大学認定単位G24

■申込方法 生涯教育センターホームページよりお申込みください。 <https://skc.kyoto-phu.ac.jp/>



2025臨床推論ステップアップ講座
〈入門編〉申込ページ



2025卒後教育講座
申込ページ



2024実務支援セミナー
申込ページ



生涯教育センター
トップページ

■お問合せ先: 京都薬科大学 事務局 実務・生涯教育課

TEL: 075-595-4677 FAX: 075-595-4792

E-mail: s-center@mb.kyoto-phu.ac.jp

2025年度申込受付中!!

京都薬科大学 履修証明プログラム
(専門・認定薬剤師資格 取得支援)

Lehmannプログラム

社会人向けリカレント教育プログラムです。

★専門・認定薬剤師資格取得サポート

★将来の薬学領域におけるリーダー育成

★少人数担当制(1~3名に1名の指導教員)によるきめ細かな指導

詳細は、京都薬科大学生涯教育センターホームページをご覧ください。

〈生涯教育センターホームページ
Lehmannプログラム〉



2024年度後期の試験日程は下表のとおりです。

※スケジュールは変更になる可能性がありますので、必ず最新状況をmanabaでご確認ください。

【後期試験等日程表】

年次	試験	期間	合格発表	受験手続日
6	アドバンスト薬学 本試験	1月7日(火)・1月8日(水)	1月15日(水)12:30～1月19日(日) Webによる公開	—
	アドバンスト薬学 再試験	1月23日(木)・1月24日(金)	2/13(木)12:30～ Webによる公開	1月15日(水)12:30～1月17日(金)
4	後期試験	1月8日(水)～1月10日(金)	1月22日(水)12:30～1月31日(金) Webによる公開	—
	後期再試験Ⅰ	2月4日(火)～2月6日(木)	2月14日(金)12:30～2月18日(火) Webによる公開	1月22日(水)12:30～1月26日(日)
	前期・後期再試験Ⅱ	2月19日(水)～2月28日(金) ※2月20日(木)を除く	3月13日(木) Webによる公開	2月14日(金)12:30～2月16日(日)
	OSCE本試験	2024年12月14日(土)・15日(日)	12月23日(月)9:00～12月24日(火)15:00 Webによる公開	—
	OSCE追・再試験	3月6日(木)	未定 ※	2025年1月下旬
	CBT本試験	1月16日(木)～1月17日(金)	2025年1月下旬	—
	CBT追・再試験	3月3日(月)	未定 ※	2025年1月下旬
1～3	後期試験	1月14日(火)～1月22日(水)	2月4日(火)～2月11日(火) Webによる公開	—
	後期再試験	2月19日(水)～2月28日(金) ※2月20日(木)を除く	3月13日(木) Webによる公開	2月4日(火)～2月9日(日)

※詳細は決まり次第manabaでお知らせいたします。

【単位互換制度とは】

本学は公益財団法人大学コンソーシアム京都の単位互換制度に参加しています。単位互換制度とは、大学コンソーシアム京都に参加している京都府内を中心とした大学・短期大学が提供する科目を履修し、単位を修得すれば本学の単位「人と文化」として認定される制度です。2024年度は加盟校から363科目が提供されました。

修得した単位は、1年間1科目2単位まで（通年科目は1科目4単位まで）を限度として、卒業要件である「人と文化」の選択科目の、受講した年度の単位として加算されます。

他大学の授業を受講し、さらに学びを深めてみませんか？

なお、単位互換科目の取扱いについての詳細は、学修の手引きを参照して下さい。

【単位互換制度の魅力】

1. 講義科目は文化・芸術・政治・自然科学などほぼ全ての学問分野にわたる科目が提供されています。
2. 講義形態は持出講義、既存講義があり、持出講義は「キャンパスプラザ京都」（京都駅前）にて集中講義や土曜日・夏季休暇期間に開講されるなど、他大学生でも受講しやすいよう工夫されています。
3. オンデマンド科目もあります。
4. 講義を受講することにより、他大学生との交流の機会が広がります。
5. 受講生は単位互換履修生として、科目開設大学の図書館等を利用することができます。
6. 全ての科目を無料で受講できます。ただし、科目によっては参考書・テキスト代等が必要な場合があります。

【受講方法】

3月上旬に大学コンソーシアム京都Webサイトにシラバスが掲載されます。前期・集中・後期科目とも3月中旬から出願受付が開始されますのでWeb上で登録・出願し、ダウンロードした出願票を教務課に提出して下さい。出願票の提出期限はmanabaで通知します。

<単位互換・京カレッジポータルサイト><https://tg-kyoto.consortium.or.jp/>

上記URLからは科目開講時に休講・補講・試験等の連絡事項も閲覧することができます。



大学コンソーシアム京都

■ 無意識バイアスとマイクロアグレッション

みなさんは、無意識バイアスという言葉をご存じですか。

例えば、友達との会話の中で・・・

「私の高校時代の友達、サッカーで全国大会出たことあるんだよ～」 「うちの親が病院の院長をしていてね～」等という話を聞いたら、その人物としてパッと思い浮かぶのは「男性」ではありませんか？

また、「A型だから几帳面」とか、「B型は自由な人」等の血液型による性格傾向の話題を一度は耳にしたことがあるのではないのでしょうか。

そのように、私たちは、幼いころからの経験や、自分を取り巻く環境、作られてきた価値観によって、知らず知らずのうちに抱えている思い込みやある種の偏見を持っています。それを無意識バイアスと呼びます。その無意識バイアスは、時に、自覚なく人を傷つけてしまう言動であるマイクロアグレッションへとつながる場合があるので要注意です。

マイクロアグレッションとは、普段の何気ない会話や行動、学校や職場など日常生活の中に現れる偏見や差別に基づく「見下しや侮辱」のことを言います。

「微細な攻撃」と訳されることもあります。マイクロは「小さい」という意味ではなく、個人間、日常生活の中で起こる差別事象のことを指します（参照記事： マイノリティが日々傷ついている「無意識の差別」の正体「マイクロアグレッション」とは何か？）

相手を傷つけるつもりがなくても、例えば、「こんなイケメンなのに彼女いないの？」 「女の子なのに主張強めだね」といった発言等は、知らず知らずのうちに聞いた人を傷つけている可能性があります。また、「男子なのに字がきれいだね」 「B型なのにきちんとし

ているね」などといった言葉がけも、言っているほうは褒めているつもりかもしれませんが、そこにはバイアスが関係しており、言われたほうは不快に感じているかもしれません。

ただし、この無意識バイアスは、あらゆる人が持っているものです。そして、それはなくなるものではありません。だからこそ、自分自身の中に、どのような無意識バイアスがあるのか、それがどのようなマイクロアグレッションを引き起こしうるのかということについて自覚的であり続ける必要があります。

人と人とが気持ちよくコミュニケーションを図れるように、まず自分自身を顧みるようにしてみましょう。そこには、マイクロアグレッションとなりうるような言動は含まれていませんか？ また、相手に悪気になさそうだけれど、自分自身が傷つけられた場合には、そのことをうまく相手に伝えられるといいですね。そうすれば、それ以上傷つくことを避けられるかもしれませんし、相手に対して自覚を促す良いチャンスとなるかもしれません。

下記に紹介している動画は、佐賀大学ダイバーシティ推進室が作成した「無意識バイアスをどのようにマネジメントしていくのか」に関する動画です。短い動画ですが、とても参考になるのでぜひご覧くださいね。

【佐賀大学ダイバーシティ推進室】無意識バイアスマネジメント学生版

<https://youtu.be/oza--tP3zew>

（臨床心理士 上野みな子）

■ 学生相談室のご案内

学生生活の中で問題や悩みに出くわしたとき、独りで抱え込むのではなく気軽に相談室をご利用ください。

相談は臨床心理士・公認心理師の資格を持つカウンセラーが担当し、学業、進路、課外活動、将来、対人関係、性格、家族、心身の健康についてなど、事の大小に関わらず学生生活に関わる様々な悩みや問題について幅広い相談をお受けしています。学生ご本人だけでなく、保証人や教職員の方からの相談も可能です。

● 相談申込み・問合せ先

学生相談室 育心館 4階

相談を希望される方は下記申し込みフォームまたはメールにて予約をお願いいたします。相談は無料です。なお、対面相談のほかに、オンライン相談（電話またはTeamsの音声通話）も実施しております。相談方法につきましてはカウンセラーにご相談下さい。その他詳細はお問合せ下さい。

- ・開室（受付）時間：月～金 8:45～17:15
- ・学生相談室メール：gakusou@mb.kyoto-phu.ac.jp
- ・電話：（075）595-4672（建部） / （075）595-4686（上野）

申込フォーム：<https://www.kyoto-phu.ac.jp/contact/support.html>



■ 細胞生物学分野の山田倫暉さんが第70回トキシシンポジウムにおいて若手奨励賞を受賞しました

2024年8月30日（金）に開催された第70回トキシシンポジウムにおいて細胞生物学分野の山田倫暉さんが、若手奨励賞を受賞しました。

受賞：細胞生物学分野 博士課程4年次生 山田 倫暉

演題：Acinetobacter baumannii の二成分制御系 PmrAB による環境応答機構の解明

演者：山田 倫暉¹、鴨志田 剛¹、山口 大貴¹、藤室 雅弘²、八尋 錦之助¹

（¹京都薬科大学微生物・感染制御学、²京都薬科大学細胞生物学分野）



■ シナジーラボの原田考輝さんが生体機能と創薬シンポジウム2024京都において優秀ポスター発表賞を受賞しました

2024年8月29日（木）・30日（金）に開催された生体機能と創薬シンポジウム2024京都においてシナジーラボの原田考輝さんが、優秀ポスター発表賞を受賞しました。

受賞：シナジーラボ 博士課程3年次生 原田 考輝

演題：ヒト人工多能性幹細胞由来大脳皮質オルガノイドとミクログリアの共培養による脳発達モデルの開発

演者：原田考輝¹、山田志歩¹、杉田一馬¹、安藤ももな¹、奥野結衣¹、中谷純菜¹、西村周泰²、高田和幸¹（¹京都薬大・シナジーラボ、²同志社大院・脳科学・脳回路機能創出）



■ 公衆衛生学分野の濱井美歩さんが第5回 和漢医薬学会若手研究者フォーラムにおいて奨励賞を受賞しました

2024年8月23日（金）に開催された第5回 和漢医薬学会若手研究者フォーラムにおいて公衆衛生学分野の濱井美歩さんが、奨励賞を受賞しました。

受賞者：公衆衛生学分野 6年次生 濱井 美歩

演題：骨髄腫細胞におけるボルテゾミブ抵抗性改善に寄与する天然物の探索および作用機序解明

共同研究者：松本 崇宏

■ 代謝分析学分野の西藤有希奈助教が第35回日本微量元素学会学術集会において奨励賞を受賞しました

2024年9月20日（金）・9月21日（土）に開催された第35回日本微量元素学会学術集会において、代謝分析学分野の西藤有希奈助教が奨励賞を受賞しました。

受賞：代謝分析学分野 助教 西藤 有希奈

演題：亜鉛輸送体を介した微量金属元素の恒常性維持機構の解明

演者：西藤 有希奈



■ 共同利用機器センターの扇田隆司助教が第11回日本アミロイドーシス学会学術集会において優秀演題賞を受賞しました

2024年10月18日（金）に開催された第11回日本アミロイドーシス学会学術集会において共同利用機器センターの扇田隆司助教が、優秀演題賞を受賞しました。

受賞：共同利用機器センター 助教 扇田隆司

演題：アルツハイマー病関連アポE4アイソフォームに対する特異的抗体の開発と反応特性の評価

演者：扇田隆司、坂井瑚都、福井和華、南波憲宏、中野未悠、木口祐貴、森田いずみ、大山浩之、八巻耕也、長尾耕治郎、小林典裕、斎藤博幸



■ 本学の学生4名が「第74回日本薬学会関西支部総会・大会」において優秀賞を受賞しました

2024年10月5日（土）に開催された「第74回日本薬学会関西支部総会・大会」において、本学の学生4名が優秀賞を受賞しました。

【口頭発表】

受賞：細胞生物学分野 5年次生 高田 まり菜
演題：カポジ肉腫関連ヘルペスウイルス（KSHV）タンパク質 PAF の特徴づけ
演者：高田まり菜、祝迫佑紀、藤室雅弘

【ポスター発表】

受賞：細胞生物学分野 4年次生 清水 華凜
演題：カポジ肉腫関連ウイルス ORF7 機能発現における重要領域
演者：清水華凜、祝迫佑紀、藤室雅弘

受賞：薬品化学分野 5年次生 大野 紗弥
演題：モノボディ改変体の誘導化と機能評価
演者：大野紗弥

受賞：生薬学分野 4年次生 辻川 茜
演題：マグノロールとホオノキオールの高率的生産を目指したホオノキの植物組織培養研究
演者：辻川茜、笠井友美、太田智絵、月岡淳子、中村誠宏

■ 薬化学分野の小林 祐輔准教授と石田 渚さんが「第50回反応と合成の進歩シンポジウム」において受賞しました

2024年10月28日（月）に開催された「第50回反応と合成の進歩シンポジウム」において、薬化学分野の小林 祐輔准教授が日本薬学会化学系薬学部会賞、6年次生の石田 渚さんが優秀発表賞を受賞しました。

【日本薬学会化学系薬学部会賞】

受賞：薬化学分野 准教授 小林 祐輔
演題：ハロゲン結合を基盤とした新規触媒反応および反応剤の開発
演者：小林祐輔

【優秀発表賞】

受賞：薬化学分野 6年次生 石田 渚
演題：プレnstेटド酸複合型アンチモン触媒によるアルケンの活性化
演者：石田渚、浜田翔平、安井裕之、古田巧、小林祐輔



■ 本学で開催した「第14回4大学連携研究フォーラム」において病態生理学分野の藤堂 暢久さんが優秀賞を受賞しました

2024年10月30日（水）に「第14回4大学連携研究フォーラム」を本学で開催し、ポスターセッション学生部門で病態生理学分野の藤堂 暢久さんが優秀賞を受賞しました。

【ポスターセッション学生部門 優秀賞】

受賞者：病態生理学分野 博士課程4年次生 藤堂 暢久¹
演題：シナロビクリンはStore-operated calcium entry (SOCE) により細胞内 Ca²⁺ 濃度を上昇させて線毛運動を活性化する
共同研究者：法山康太¹、細木誠之¹、中村誠宏²、田宮暢代³、戸田侑紀¹、茂田昌樹⁴、高山浩一⁵、芦原英司¹
(¹京都薬科大学 病態生理学分野、²京都薬科大学 生薬学分野、³洛和会音羽病院 呼吸器内科、⁴京都府立医科大学大学院 生体機能形態科学、⁵京都府立医科大学大学院 呼吸器内科学)



■ 細胞生物学分野が報告した学術論文がBiol. Pharm. Bull. 誌のHighlighted paper selected by Editor-in-chief、Featured Article、ならびに表紙カバーとして選出されました

細胞生物学分野が報告した学術論文がBiol. Pharm. Bull. 誌のHighlighted paper selected by Editor-in-chief、Featured Article、ならびに表紙カバーとして選出されました。

タイトル：The Atypical Dual Specificity Phosphatase DUSP15 Regulates Jak1-Mediated STAT3 Activation
著者名：Kazuna Kikkawa, Tadashi Matsuda, Masahiro Fujimuro and Yuichi Sekine
掲載巻号：Biol. Pharm. Bull. Volume 47 Issue 9 Pages 1487-1493. 2024

Webサイト：https://www.jstage.jst.go.jp/article/bpb/47/9/47_b24-00314/_article/-char/en

学長インタビューが、京都新聞（2024年9月15日）に掲載されました。



Figure 1 shows Professor Liang Sheng, a member of the editorial board, standing in front of a calligraphy scroll.

大学は
いま

分で考える力とリーダーシップも養い、多彩な領域で活躍できる薬剤師になってもらいたい。

高校生からすれば、薬剤師は調剤薬局で働くイメージがあるかもしれないが、活躍の場は近所、製薬会社をはじめとした企業、行政機関や広がりを見せつつある。（住み着いた地域で医療や介護を受ける）地域包括ケアシステムの中では、大きな鍵を握る人材だと認識されている。



薬剤師の養成機関としての役割を担うべく、6年制は7000年度に導入された。最初の4年で薬理学・生理学・生化学・人体について学び、5年次には病院などで臨床場を経験する。6年次に国家試験に向けた総まとめを行う。

国家試験の合格率はほぼ毎年90%を超え、全国平均を大きく上回る。薬について知るためには、化学や生物など基本的な知識の土台の上に新たな知識を積み上げていくこと

京都大学大 1868年にドクトル・ヘンリー・トーマス・フリスが創立して、順に上野新塾、立憲義塾、立憲学校を経て、私立京都義塾が生まれ、1945年京都大学大を経て、1949年に京都大学大になった。現キャンパスは上野山山科町、学舎は1966年、学生数は約7,200人（2011現在）が重なり、伝統と経験を生かしたカリキュラムを設けている。

また、卒業生の進路が多岐にわたるのも学の特長だ。病院や薬局、ドラッグストアだけでなく、企業へ進む卒業生は3割近い。製薬会社のM/R（営業情報担当者）、食品会社、化

今後は、医療を巡るデータサイエンスがより重要になると感じている。地医療院と終末期医療、データによる疫学研究などに対応できる人材の育成を考えた。18歳人口の減少など大を巡る課題はあるが、「しかり」として医療を分野、卒業者がそれぞれの役割を担ってほしい。選ばれる大学として期待する。進むべき道の正しさまで歩んでいきたい。

■ リレー・フォー・ライフ・ジャパン2024京都について、京都新聞に掲載されました

本学で開催されたリレー・フォー・ライフ・ジャパン2024京都について、京都新聞（2024年9月30日）に掲載されました。

令和6年(2024年)9月30日（月曜日）本版 朝刊 福祉 朝刊 008ページ

がん征圧を目指すチャリティーイベント「リレー・フォー・ライフ・ジャパン2024京都」が22日、京都市山科区の京都薬科大アリーナで行われた一写真。

京都府内の患者や家族、支援者らでつくる実行委員会と日本対がん協会が主催した。

患者や支援者らが交代で歩き、がんに向き合う勇気を共有するのがねらい。会場内には、「希望」「夢」「負けない」「共に歩もう」などそれぞれの思いを書いた灯籠を並べ、その周りを交代しながら6時間にわたって歩いた。

京都薬科大管弦楽部の演奏もウオーキングする参加者の心を和ませ、京都ノートルダム女子大の学生は設営などを手伝った。

がん患者と学生らとの語らいの場も行われた。

実行委員長尾崎智代さん（52）は「天候の悪い中、たくさんの方に参加してもらえてうれしい。がん患者支援の場としてこれからも継続していきたい」と話した。

山科で患者や支援者らウオーキング

がんに向きあう勇気共有

京都新聞社
The Kyoto Shimbun Co., Ltd.

©京都新聞社 無断複製・転載を禁じます

■ 本学で開催した多職種連携教育（IPE）が薬事日報に掲載されました

本学で開催した多職種連携教育（IPE）が、薬事日報（2024年11月18日）に掲載されました。

薬事日報 2024(令和6)年11月18日 月曜日

京都薬科大学は10日、京大スで、京都府立大学と合同で、京都市山科区の同キャンパスで、多職種連携教育（IPE）を実施した。3学部4学科の学生が少人数のグループで具体的な課題や解決策を討議。各職種で連携の重要性を学んだ。

IPE教育には、京都薬大の5年生、京都橋大看護学部、同健康科学部理療

3学部4学科でIPE 京都薬大

法学科と薬学部の4年生の計51人が参加した。学生はグループに分かれ、脳梗塞で救急搬送され、半年後に在宅医療に移行した高齢男性の症例を対象に、様々な視点で討議。患者や家族の生活スタイルを考慮し、薬の服用方法、理学療法、作業療法士の立場やチーム医療としての役割や連携の重要性を学んだ。

2大学によるIPEは2016年度から始めたもので今年で9回目。参加した学生からは「各学部によって注目する視点が全く異なっていた」「他職種の強みと、共通の目標に向かって知識を共有するとの大切さが分かった」などの声が上がった。

掲載記事については本学ホームページよりご覧いただけます。

<https://www.kyoto-phu.ac.jp/compendium/paragraph/>



下記の方々からご寄附をお寄せいただきました。ご協力ありがとうございました。

* 敬称略、芳名のみ掲載しております。

* 100万円以上を頂いた方は、愛学館エントランス『京都薬科大学 高額寄附者顕彰銘板』にも掲載させていただきます。

2024年9月～2024年11月にご寄附をお寄せいただいた方々

< 卒業生・同期会等（五十音順） >

稲垣 美幸	高越 清昭
進藤 広彦	中森 省吾
鈴木 宏樹	福井 英二
袖岡 茂徳	

< 法人役員・評議員・職員等（五十音順） >

赤路 健一（学長）

（2024年11月30日現在）

■ ご寄付のお願い

本学では皆様からのご寄付で様々な支援を行っています。

引き続き温かいご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

詳細は本学公式Webサイトよりご覧ください。 <https://www.kyoto-phu.ac.jp/compendium/contribution/>



KPU NEWS No. 220 2025年1月発行／編集：KPU NEWS編集委員会

発行：京都薬科大学 〒607-8414 京都府京都市山科区御陵中内町5 ☎075-595-4691（企画・広報課）

※本誌掲載の文章及び写真の無断転載を禁じます。